

ウ ラ ギ ン シ ジ ミ

Curetis acuta Moore



種名

分類

シジミチョウ科

形態

前翅長 19～27mm。夏型(高温期)は前翅端が丸みをおび、秋型(低温期)はとがる。裏面は銀白色、♂は翅表に赤色斑、♀は白色斑をもつ。成虫、幼生期の形態が他のジシミチョウ科とは異なり、ウラギンジミ科として独立させることもある。

分布

本州(東北地方南部より南の地域)、四国、九州(壱岐・対馬を含む)。南西諸島(種子島、屋久島、中之島、奄美大島、多良間島、石垣島、西表島、波照間島、与那国島)。暖地性であるが、南西諸島では分布がとびとびになる。

出現期

成虫で冬を越し、春に産卵する。第1回目の夏型は、6月頃から羽化する。10月までに年2～3回の発生。秋型は9～10月に出現。11～12月には越冬に入る。八重山諸島では、ほぼ周年発生する。

生態

市街地でもみられ、クズのマント群落周辺に多い。低山地の林縁にも棲む。くるとと旋回するように飛び、地上によくとまる。湿地で吸水したり、腐果や腐肉(動物の死体)、排泄物で吸汁する。セイタカアワダチソウなどで吸蜜することがある。おもに常緑樹の葉裏で、冬を越す。同じ本に数頭かたまることがある。

食樹

マメ科のクズ、フジ、タイワンクズ、クロヨナ。

幼虫
(幼生期)

卵は白色で、背の低いまんじゅう型。直径1mm 内外。表面に多角形状の網目模様をもつ。終齢(4齢)幼虫は体長 20mm。黄緑色は赤紫色、食べる植物によって色彩変異がある。他のシジミチョウ類のように扁平ではなく、背が高い。尾部に1対の長い突起をもち、尾端のほうが頭部のように見える。刺激を与えると、突起からブラシ状の伸縮突起を出し入れする。蛹は体長 15 mm。腹面が平面状の半球型。背面に黄褐色のスパード紋をもつ。

出現時期

(月)	-	-	-	-	-	6	7	8	9	10	-	-
-----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	---	---

その他

参考文献：検索入門 渡辺康之著 チヨウ